

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2026年 ～～ 第67号 ～～



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒302-0102

茨城県守谷市松前台7-22-6

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



はじめに

「高次脳機能障害者支援法が4月から施行されます！」



寒さの中にも時折は春の日差しを感じる今日このごろ、皆さまいかがお過ごしでしょうか。大きなニュースとして高次脳機能障害者支援法が衆参両院の本会議で可決され 12/16 に成立しました。令和 8 年 4 月 1 日施行です。

これまで日本全国の各地域の家族会が障害者と家族の安心を増やすために行ってきた地道な活動のエッセンスが法案内容に込められ、それが成果として形になったものなので大いなる喜びを感じます。

但しこれからが本当の意味での地域の運用体制を構築する重要な時期のスタートでもあるので、今まで以上に草の根の活動として当事者を取り巻く困り事にフォーカスして改善を継続することに取り組んでいこうと思います。

さて法案成立までの経緯についてですが、数年前に日本高次脳機能障害友の会と複数の政党の超党派議員とで法案の検討会を作り、昨年春に国会前で超党派議員の決起集会をして通常国会に法案提出しました。しかし令和の米騒動で春の国会審議が吹き飛び、波乱の末に秋の臨時国会に再び提出し 11 月末に衆議院厚生労働委員会で議員団代表から説明し審議の上で本会議採決を仰ぐことが決定し、12/8 衆議院本会議で可決、12/16 参議院本会議でも可決され法案成立となりました。それにしても衆参両本会議で全会一致というのは嬉しい限りです。12/24 には全国の都道府県に公布されました。

さて友の会では、毎年、茨城県庁で県知事及び障害福祉課に高次脳機能障害の支援に関する要望書を提出し文書での回答を要求しています。今年度は 2/2 に提出し、障害福祉課長と担当者に対して内容説明を行いました。会員当事者や会員家族（役員含む）から実状や困りごとを伝え、障害福祉課長からひとりひとりに丁寧にコメントを頂きました。会話が確りとかみ合い和やかな要望書提出会議となり有意義な時間となったことを感じました。県は一步ずつ支援体制を充実させてきており感謝の限りです。そして友の会としては今後も少しずつでも当事者や家族の不安や困りごとの実情を県に伝え、それらの困りごとの軽減に繋がるように取り組んでいきたいと思っています。



今年は法案が施行されることから、それを追い風にして高次脳機能障害の支援に関する行政の取り組みや支援体制構築の活動がより活発になることを期待しつつ、友の会としては相談活動や当事者会活動の一番身近なところの草の根からの活動を充実させていく所存ですので、今後ともご理解ご協力をよろしくお願い致します。（会長 本田孝男）

| | |
|--|-------------------------|
| www.sangiin.go... | |
| 参議院 House of Councillors The National Diet of Japan | |
| トピック > 本会議投票結果 | |
| 本会議投票結果 | |
| 第219回国会 2025年12月16日 投票結果 | |
| 案件名: | 高次脳機能障害者支援法案 (衆議院提出) |
| 投票総数 | 246 |
| 賛成票 | 246 |
| 反対票 | 0 |

高次脳機能障害支援センター主催の講演会に参加して

《知の探究セミナー(県立図書館)》

テーマ「高次脳機能障害ってなんだろう」 令和8年1月25日(日)

一般の方々に、「高次脳機能障害」について知ってもらう機会を・・・ということで県立図書館の視聴覚ホールを会場に講演会が行われました。

内容は、高次脳機能障害支援センター長の井出政行先生から「精神科医としての高次脳機能障害との関わり」について、その後、臨床心理士の笹島京美先生から「高次脳機能障害を抱える当事者と家族へのアプローチ」についてお話がありました。

図書館のポスターを見て来られた方、本を借りに来てたまたま通りかかって入られた方など、予備知識のない方にも分かり易い内容だったと思います。

《高次脳機能障害支援従事者研修会》

テーマ「“奪わない支援”とは何か」 令和8年2月7日(土)

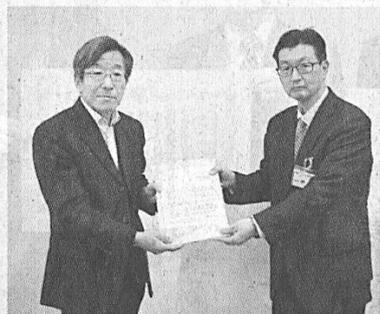
ルポライター鈴木大介さんによる講演会で、医療・福祉機関の支援従事者や行政機関の職員、学生などを対象に行われました。鈴木さんご本人も高次脳機能障害の当事者であり、書籍も多く出版されている方です。

ご自身の体験から、急性期・回復期病棟での支援について、「与える支援ではなく、奪わない支援をお願いしたい」ということを映像や音なども交えながら、お話されました。会場が県立医療大学でしたので、学生や卒業生達との質疑応答などもあり、とても充実した研修会でした。

新聞記事から

茨城新聞 2月3日朝刊

伊藤康司県障害福祉課長(右)に要望書を手渡す本田孝男会長



高次脳機能障害 家族会が県に要望
脳の病気や交通事故による後遺症で記憶や行動に支障が出る高次脳機能障害の県内家族会「高次脳機能障害友の会・いばらき」が2日、県庁を訪れ、行政主導で身近な地域に相談や当事者交流の場づくりなどを求めた要望書を提出した。家族会の本田孝男会長が、県障害福祉課の伊藤康司課長に要望書を手渡した。

行政主導で相談の場を

高次脳機能障害 家族会が県に要望

高次脳機能障害は、新しいことを覚えられなかったり、感情の抑制が難しくなったりするなどし、日常生活に支障を来しやすい。外見では患者と分かりにくい人もおり、「見えない障害」ともいわれる。支援を拡充する新法案が4月1日に施行される。

要望書では当事者と家族が居住地域の近くで相談や情報交換のできる場を行政主導でつくるよう求めた。このほか、支援にたどり着けない当事者や家族をゼロにする体制、学校現場での支援体制・研修の実現なども盛り込んだ。

本田会長は「家族会は資金も人手も限られ、行政主体で安定的に相談室や家族会を主導してほしい」と話した。(斎藤明成)

令和7年度第2回リハビリ講習会 in 古河

去る12月6日、古河市の「共和電設とねミドリ館」において第二回茨城県リハビリ講習会が開催されました。県西地区高次脳機能障害地域支援拠点病院である古河総合病院のコーディネーターが中心となって「高次脳機能障害に対する県西地区の取り組み」と題し、様々な事業所の活動が紹介されました。

はじめに、浅野ゆかり氏（茨城県高次脳機能障害支援センター）より、支援センターの事業内容や高次脳機能障害地域支援拠点病院の役割や体制について説明がありました。続いて、古河総合病院からは宮脇健氏より病院の概要と高次脳機能障害の基礎説明、廣嶋俊秀氏よりリハビリテーション科の役割、柿沼友洋氏からは退院後の生活を見据えた退院支援について紹介がありました。また、松岡あゆみ氏（八千代町基幹相談支援センター）より、地域における相談支援の役割と実際について説明がありました。高野澄氏からは、障害者就業・生活支援センター「慈光倶楽部」の取り組みと実際が紹介され、越川裕子氏（デイサービスあおやま、らくくあおやま）からは、訪問事業（訪問看護）について説明がありました。そして最後に、高次脳機能障害友の会・いばらきの家族の立場からということで鈴木とも江さんの発表が行われ、当事者である息子さんと向き合ってきた様子や思うことなどが語られました。

本講習会は、医療・福祉・就労支援に加え、当事者・家族の視点を共有し、地域全体で支える重要性を再確認する良い機会となりました。今後も、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、継続した取り組みが期待されます。（滝沢）



交流室に参加して

茨城県高次脳機能障害支援センター様からお声かけいただき、今年度から家族会交流会に参加させていただいております。

高次脳機能障害友の会・いばらき会長の本田様をはじめ、友の会のみなさま、関係機関の方々にもいつも温かく迎えていただき心より感謝申し上げます。

交流会はいつも和やかな雰囲気の中進みます。高次脳機能障害の症状を理解する機会となり、また日常生活への影響や悩みについて、共感しあえる場になっています。経験をわかりあう、自分だけではない安心感を共有することができ、交流する場の大切さを再認識しています。私にとって家族会交流会に参加することは、学びであり、つながりの場となっております。

さて、高次脳機能障害支援法が来年4月から施行されます。新法では、基本理念に高次脳機能障害の方の自立と社会参加を確保し、社会的障壁を取り除く支援策を講じるよう定めております。基幹相談支援センターは、地域における障害者支援の中核的な役割を担う機関で、相談支援や情報提供を行っています。医療や福祉、教育など関係機関が連携し、切れ目のない支援をすることができるよう努めてまいります。地域には、支援を必要としていても、つながっていない、悩みを抱えている方が多くいらっしゃると思います。これらの方々のお気持ちに寄り添い、友の会交流会につながるお手伝いができればと考えております。

水戸市西部基幹相談支援センター 所長 大津 祐子

当事者の思いを発信中!!

笠間市 堀 高寛 さん

堀さんと初めてお会いしたのは、県央地区の「家族会交流室」でした。堀さんがリハビリのために通院していた病院でポスターを見て「どんな人たちが来てるんだろう？」と興味を持ったのが、交流室に来るきっかけだったそうです。「障害のせいで、言葉が思うように出てこない」とのことでしたが、一つ一つ丁寧に言葉を探しながら、ご自分の思いをお話する様子が印象的な方でした。



◇ 今から5年前、郵便局の配送の仕事をしていた時に、脳出血を起こしました。その後仕事に復帰しましたが、今度はてんかんを発症してしまい、運転も禁止され、仕事を続けることが出来なくなってしまいました。他にも色々困難なことはありますが、以前の自分と特に違う所は、「数字が覚えられない」「長い文章を理解するのが難しい」「周囲に雑音があると、物事に集中できない」などを挙げられました。ご自分の苦手なことを、とても冷静にそして客観的に分析されているのに驚きました。

◇ 1 昨年、堀さんが挑戦したことがあります。それは、地元自治会の「班長」を引き受けるという事でした。1年分の会費を集めて、会計担当に納め、月に2回程度の回覧版の管理等が主な仕事でした。最近は「煩わしい」との理由で加入しない人も多い中、高次脳機能障害でリハビリ中の堀さんには負担の大きい役割だったと思います。役目ももうすぐ終わるといふ2月に、股関節の手術の話がありました。ところが、堀さんは医師にお願いをして手術を4月初めに変更して頂き、1年間の班長の仕事を、立派に最後までやり遂げたそうです。

◇ 堀さんの趣味は「サーフィン」でした。高校生の頃からの夢だったのですが、その頃はお金がなかったので、高価なサーフボードが買えず、職場の先輩に誘われて始めたのは30歳になってからだそうです。職場が水戸だったので、出勤前に大洗海岸でサーフィンをし、仕事が終わるとまた大洗まで行ってサーフィンをする。そんな時期もあったと、懐かしそうに話してくれました。



◇ 堀さんは、股関節の手術をしてから、筋肉が固くなってしまい、歩行が少し困難になりました。自転車も、足が上がらないので今は乗れないとのことですが。しかし、堀さんの希望としては、自転車に乗れるようになったら、ご自宅から内原の「イオンモール」まで行ってみたいそうです。そして、更に身の回りの事が片付いたら、最終的には障害者枠での就労を目指したいと力強く語ってくれました。とても意志の強い方なので、きっと実現されると思います。

事業所訪問

1 up (ワンナップ)

住所 那珂市菅谷868-3

電話 029-212-4300



- ◇ 閑静な住宅地のはずれに、総合自立支援事業所「1 up」がありました。近くには水郡線の駅や公園もあります。まだ建てられて間もない素敵な事務所で、柏さんと中村さんにお話を伺いました。「1 up」では、「生活介護」「訪問看護ステーション」「ケアプランセンター」「就労支援事業」「ヘルパーステーション」「短期入所事業」「障害者（児）相談支援事業所」など、幅広い活動をしていました。

- ◇ 柏さんご自身が、けがで車いすの生活を余儀なくされた時、「障害者にとってこの社会は生活しにくい」と感じたことが、「1 up」を立ち上げるきっかけだったそうです。「1 up」の理念は、「十人十色の個性とペースでやってみよう」というもので、「まず一步をゆっくりと踏み出してみる事」を職員全員で支援していきたいと、力強く話されました。



中村さん 柏さん

- ◇ 事務所とは少し離れたところに「就労支援事業所」がありました。定員は就労移行支援が6名、就労継続支援B型が14名です。A型事業所への移行も支援しているそうです。今号表紙の写真にある「手作り刺繍の缶バッジ」「巾着袋」は利用者の方々の作品です。市役所や県庁のロビーなどに出店したり、ハンドメイド作品の通販サイトで販売したりもしているそうです。

- ◇ 事務所の傍には、「グループホーム」がありました。日当たりの良いきれいな建物で、男性8名、女性8名が生活されていました。短期入所のための部屋もありました。明るく広いリビングルームもあり、皆で和気あいあいと過ごされているそうです。地域とのつながりも大切にしたいとの考えで、自治会の一斉清掃などにも参加しているそうです。



◎ 利用者の中には、高次脳機能障害の方もおられるので、「障害に関する基礎知識」や「対応の仕方」等を職員たちで勉強したいということで、研修会を行いました。高次脳機能障害支援センターから講師をお招きして、充実した研修ができたとのことでした。コーディネーターの資格も二人の方が取得されたそうです。リーダーの柏さんは、いつでも夢を追いかけておられる方です。その明るいお人柄が職員の方々の素晴らしいチームワークを作っているのだと感じました。

家族の思い（リハビリ講習会での発表）



私は、2023年2月1日、息子が勤務中に大きな事故に遭った日を、今でも鮮明に覚えています。息子はダクトのフィルター交換作業中に誤って天井裏に上り、点検口の金具が壊れて約6メートルの高さから転落しました。意識を失い、救急搬送。その後急性期病院で治療を受けました。主治医から「脊髄には損傷はありませんが、脳の小脳、後頭葉、前頭葉に脳挫傷があります。」と、説明されました。診断は「高次脳機能障害」そして「3～4歳程度の脳の機能」と言われました。当時は、その意味さえ理解できず、ただ涙が止まりませんでした。

2023年3月6日、息子は回復期リハビリテーション病院に転院しました。約45日ぶりの面会では、「久しぶり」と声をかけてくれた息子の言葉に胸が熱くなりました。しかし、感情が不安定で小さなことでも怒鳴ったり、鳴いたりする日々。先生から「お母さん、今は泣いてる場合ではありません」と励まされ、私も強くなるしかありませんでした。退院を望む息子は、リハビリを一生懸命頑張り、3月30日に退院しました。

退院後の生活は想像を超えるものでした。息子は感情のコントロールが難しく、母親に強く依存し、離れると不安で取り乱すこともありました。「会社に行きたい」「元に戻りたい」その思いが強いほど、うまくいかない現実に苦しみ、怒りや涙をぶつけてくることもありました。私はただ「代われるものなら代わってあげたい」と願うばかりでした。そんな中、夫の妹に相談したことがきっかけで、「茨城県高次脳機能障害支援センター」と、「高次脳機能障害友の会・いばらき」の存在を知りました。支援センターの職員の方がわざわざ自宅まで来てくださり、相談やリハビリ病院の紹介を受けました。また、友の会の「交流室」にも参加し、同じ悩みを持つ家族の方々と出会いました。「一人じゃない」と感じられたことで、心が少しずつ軽くなっていきました。薬の副作用で「眼球上転」が起き、息子の黒目が上を向いてしまう症状にも苦しみましたが、薬の見直しをしてからは、ようやく穏やかな表情を取り戻せるようになりました。

2025年4月、息子がついに職場復帰を果たしました。最初は午前中だけの勤務でしたが、現在は15時まで働けるようになり、「仕事が楽しい」と、笑顔で話してくれます。お弁当も自分で作り、毎日元気に通勤しています。その姿を見るたびに、これまでの苦労が報われる思いです。

私自身も友の会を通じて「家族会交流室」や「リハビリ講習会」に参加し、高次脳機能障害への理解を深めてきました。講習会で出会った医師に「治るのでしょうか」と尋ねた時、「若いから2～5年で回復しますよ」と励ましの言葉を頂きました。その言葉が今の私の支えです。息子も私も沢山の方に助けられながらようやくここまで来ました。支援制度や仲間の存在がどれほど大きな力になるのか、心から実感しています。これからも、息子の笑顔と成長を信じ、歩みを止めず、同じように悩む家族の希望になれるよう、活動を続けていきたいと思います。この経験が、同じように苦しむご家族に「希望の一步」として届けば幸いです。

（家族会員 鈴木とも江）

お知らせ



今後の行事予定（2月～6月）

| | | |
|----------|------------|------------|
| ◇鹿行地区交流室 | ★ 3月25日(水) | ★ 5月27日(水) |
| ◇県南地区交流室 | ★ 4月10日(金) | ★ 6月12日(金) |
| ◇県央地区交流室 | ★ 3月13日(金) | ★ 5月8日(金) |
| ◇当事者会 | ★ 3月29日(日) | ★ 5月未定 |
| ◇バス旅行 | ★ 3月1日(日) | |

交流室からの報告

| | |
|-----------|---------------------------|
| ◇鹿行地区 11月 | 相談者2組 会員5名 支援セ(岡野CN) 社協1名 |
| 1月 | 相談者2組 会員3名 支援セ(田中CN) 社協1名 |
| ◇県央地区 11月 | 相談者2組 会員4名 支援セ(浅野CN) |
| | 水戸社協2名 |
| 1月 | 相談者6組 会員4名 支援セ(田中CN) |
| | 水戸社協3名 相談支援員2名 |
| ◇県南地区 10月 | 相談者5組 会員3名 支援セ(高橋副) |
| 12月 | 相談者5組 会員3名 支援セ(高橋副・田中CN) |
| | 関係機関1名 |

「ありがとうございました」ご寄付をいただいた方々

当会の活動にご理解を頂き、ご寄付を賜りました。皆様からのあたたかな善意に深く感謝申し上げます。これからの活動に大切に使用させていただきます。

《ご寄付を頂いた方々》

- ・交通事故・弁護士全国ネットワーク様
- ・茨城県作業療法士会様
- ・医療法人聖嶺会立川記念病院様
- ・茨城県ソーシャルワーカー協会様
- ・医療法人社団筑波記念会筑波記念病院様
- ・吉田真由美様
- ・小野瀬須満様
- ・関東ロードサービス様
- ・医療法人徳洲会古河総合病院様
- ・医療法人博仁会志村大宮病院様
- ・茨城県立医療大学様
- ・鈴木和枝様
- ・荒井真理子様
- ・宮嶋理恵様

お悔み

当事者会員の 飯島 直行さま（つくば市）が逝去されましたので、ここにご報告いたします。謹んでご冥福をお祈りいたします。